

廃墟からの小さい不死鳥

昨年の経済の下降化とあの 9 月 11 日の人的資源の壊滅的な衝撃を受け、その後の世界的混乱の中でこれは全く驚かされたことに、一人の若い創業者が長年の夢の印刷業を始めた。ベン・ロッシ、26 才の彼は大学を出て直ぐにプリンター(印刷工)となる。彼は何もかもこなさねばならなかった、グラフィックデザイン、プリプレス、印刷助手、折加工、断裁、などなどの、小さい軽印刷店に勤め始めた。いろんな手仕事を喜びんでこなし、印刷業の多様性を知り尽くすにいたる。そこからベンは中規模の商業印刷会社に勤める。そこでの年季の間、2 年前まで、来る日も来る日もフィルム出力をしていたが、その傍ら、ベンはヴァージニア州リッチモンドで小ロット・フルカラーの迅速処理ショップのビジネスモデルを練っていた。市場が熟したと感じつつ、すき間のサービス分野から入り込もうとしていた。彼と妻のジョー・アンは一緒になってビジネスプランを練り、財務手当てにあたる間、ベンは機種選定を行う。彼はリョービ(ゼロックス 233 / OEM 製品)の DI 機に気がついた。Quickmaster DIの欠点と見ていた名入れ刷りこみが大変うまくできるのだ。昨年シカゴでの Print01で、最初に見る機会を得て、リョービの頑丈な機械構造に満足した。ベンは機嫌良くしてシカゴを去り、9 月 9 日にリッチモンドへ飛行機で帰った。その資金手当てを整え、建物の賃貸契約をして、その上で機械を決定したのだ。全てのことが設定されたが、その 2 日後に世界が大混乱してしまう。危機の余波の中でベンとジョー・アンは大変つらい意思決定をした。最終的には、世の発展を止めるすべはないのではないかと彼らは確信する。それでは、危機と言う相手の攻撃をかわそう。リョービ 3404 DIを11 月に入れ、2 ヶ月間機械で実地訓練を積む。(ベンは社名をどのようにして決めたか覚えていないと言うが、我々が推測するに、それは「実に実にすばやく」を含蓄する何かではないのか)

Zoom は着実に量を積み上げ、予定をこなして行く。その生産内容は、数多くの葉書、名刺、週に 1 回集中的に来る棚カードなどである。いくらかの代理店の仕事、少量の副次的な仕事、小冊子、販売資料、チラシなどもある。今のところ、Zoomの仕事の足の長さは60 枚から4 万枚というところである。キャッシュフローは健全そのもので、ロッシはまるでバラエティショーを振舞っているようである。

Zoomのキャッシュフローを助けているものにその労働パワー(働き振り)にある。ベンとジョー・アン、二人は財務と営業に勢力的に動き、他に一人いる。3 人は全員、26 才。営業は社外の営業部隊と協業して行っている。Zoomは他の軽印刷業者から2 色物についてのみ外注の仕事をかなり、受けている。Zoomは競争力のあるレート(価格)でリッチモンドの数軒の印刷業者の仕事をしているが、距離の離れたペンシルベニアのハリスブルグ、ワシントン DC、バージニア州のバージニアビーチの印刷業者とも付き合っている。この客連は50 ~ 75 マイルほど離れていて良い関係を保ち、Zoomは外注受けに徹している。ベンは、中規模の印刷会社は小ロットとものをこなしきれず、ここに外注受けの余地があると見ている。

Zoom は最近、リッチモンド商工会議所に加盟し、月間郵送物の差込みの仕事をしている。

WPAの蝶々CDからの4色蝶々マークを表紙にあしらい、その見出しに「我々は先端技術を駆使し、優れた製品を納得値で、しかも、納期厳守で提供しています。本日、Zoomにお電話下さい。」とある。他の宣伝はがきには「水なしで一層のカラー印刷を、しかも、シャープな網点」と列記、WPAの蝶々CDからマークを添えてくれている。さらに「貴方のデザインを冴える、輝く色にスーパー仕上げで行います。Zoom印刷に來ると、ボケた、くすんだ結果に失望することなど絶対に、起きません。我々は先端の水なし技術を駆使し、難しい色のグリーン色、オレンジ色、紫色を再現してみます。」大変ユニークなプレミアの一つで、お気に入りのものがZoom(Hershey) Bar(格安な2次元価格一覧表)である。利の出る栄養摂取のもとで、品質(2540dpi)とスピード(24~72時間仕上げ)に応じたある2次元価格一覧表を提示している。(これが一般相場より20~50%割安) むろん、日々のビタミン剤、C、M、Y、Kを100%含んでのことである。大変良く考えた、その上、分かりやすいものだ。



Zoomのスタッフが義理写真に向かっている。時計回り下からジョー・アン、ベン・モーサー、ベン・ロシーと小型競争犬のフィルである。

印刷機

リョービ 3404DI はプレステック社のプロファイヤー焼付け装置とパールドライサーマル版技術を使っている、2ページ(A3)、4色のダイレクトイメージング印刷機である。本機は、啞え替えなしで用紙を保持して印刷してくれる大径圧胴からなるユニークなV型のデザインをしている。結果、ダイレクトイメージングの高精度と水なし印刷によりその見当性は

完璧である。本機には自動焼付け・印刷・後処理までの全印刷工程を一環処理してくれる自動印刷装置が組みこまれている。軽いインキ盛りから重いインキ盛りへの切り替え、その逆も迅速にできるのは注目される。ほとんどの仕事は 50～100 枚のうちにセットアップできると、ベンは言う。彼の経験ではインキ出しは印刷中、大変安定していて面倒見の必要性はほとんどない。

Zoom はリョービ機を DI 機として市場に売りこんできたが、見込み客の中にはこれをザイコンやインディゴのようなデジタル印刷機と誤解している混乱に気がついた。彼らと似たデジタル・アプローチをさける一方で、水なしの印刷利点をずっと訴えつづけた。セールス訪問したとき、品質評価には多言しなくてすむ。これは普通のオフセット印刷と同じであるが、中間調でのドットゲインははるかに少ないと顧客に言う。しかも、他のオフセット印刷業者の価格よりやや下げて売りこむ。同社の社名に反し、ベン・ロッシはゆっくりと着実な成長を図っている。彼の突け込む隙がまだまだあり、これをかなすにも十分なものがあり、必要以上のスピードで、急いで動き回りたくないのだ。Zoom、Zoom。

プレステックで 300lpi(線)のスーパー印刷 秘密が剥がれる

3 年以上前、オハイオ州のワレン社はローテムプレートセッターとプレステック社のパールドライを使った水なし CTP の旅に出発した。今日、同社は 300lpi(線)のイメージングと印刷に大成功を納めている。プリプレスの達人、リチャード・カッセラと話すまで、彼らは 220～240 線ぐらいのものをこなしているに過ぎないと我々は誤解していた。プレステックを使用しているユーザー達の多くはこの範囲がスクリーン線数の限度と言っている。スーパー CTP の旅は 1999 年 4 月、ローテム 800V プレートセッターを導入したときから始まる。8 面付けのフィルム出しをドレブ 800 で 2～3 年していたし、ブリスク・フロンドエンドをこなしていたのでワークフローの乗り移りはたやすいものであった。しかし、水なし CTP への変更は挑戦そのものであった。と言うのは、サーマル水なし CTP はプレステックしかなかったからだ。これは長い焼付け時間を要した。そのためドラムの回転速度を落とし、14 分で 1 版を出力した。ローテム 800V では 24 レザードायオードから 48 に性能アップしてくれた。今では 9 分で 1 版の水なし版の出力をしてくれる。時間あたり 4 版でなく、この魅力あるローテムでは時間あたり 7 版のプレステック水なし版を出してくれる。これはスーパー印刷にとってインパクトのある改良であった。露光時間が早まってくれプレステックのパールドライ版の CTP の実用性が出てきた。ほとんどのカラーの仕事はスーパー印刷で 2 台の 8 色機と 1 台の 40 インチ 4 色機でこなしている。

どう使いこなしているか

プレステックの版は普通のパールドライでプラスバージョンではない。48 ビームのローテムでは 270 または 350rpm の回転にセットする。版は 9 分で焼きつけられる。

版擦りの選択

長い施行錯誤の末、スーパー印刷では次のように設定されている。焼き付け後、版は通常の化学薬品を含まない東レプロセッサーで洗浄される。温水と Pinesol 合成洗剤の余熱浴槽は使わない。その割合は 1 オンスの合成洗剤を 5 ガロンの水に希釈。東レプロセッサーの

他のユニットには水以外は入れない。40 インチの版を処理するのに 6 分かかる。カッセラは第 1 ユニットで暖めると水/合成洗剤液を蒸発させる恐れがあるので、必要に応じて液を追加することが肝要と注意してくれる。

注意の言葉

読者もご存知であろうが、合成洗剤は攪拌すると泡が出るトラブルが発生する。リチャード氏によると、スーパー印刷で実験中の数値として、1 オンスのアンモニアを 5 ガロンの水で割っている。泡立ちが少なく、版へのインキ着肉は良好であり、この混合比の具合がよさそうだ。カッセラが試験している次の添加剤は自動車の風除けワイパー液である。リチャード・カッセラ氏のこの情報に感謝すると共に、プレートセッターとパールドライ水なし版を対してご使用の他の会員様に役立つこと願う。

正誤表

Current 2001 年 4 月号で編集者は不注意にもオフセット印刷と関連する VOC としてトルエンをあげていた。これは間違いで、不要な混乱を招いたことを陳謝する。トルエンは普通、グラビア印刷と関連付けられる。

できごと

WPA の長年のメンバーである Equipage 社は 2002 年 6 月 6 日をもって、Hollandia 社を吸収合併し、新生・Hollandia Equipage 社としてオランダの Heerhugowaard 市の新しい地で誕生した。

国際アートセンターがオランダのバールオ市で正式にドアーをオープンするが、IAC オフセットは祭司に囲まれていよう。2002 年 9 月 7 日、立派なアートが正式に展示され、そのにはホテル、レストラン、写真スタジオ、シルクスクリーン装置がそろっている。